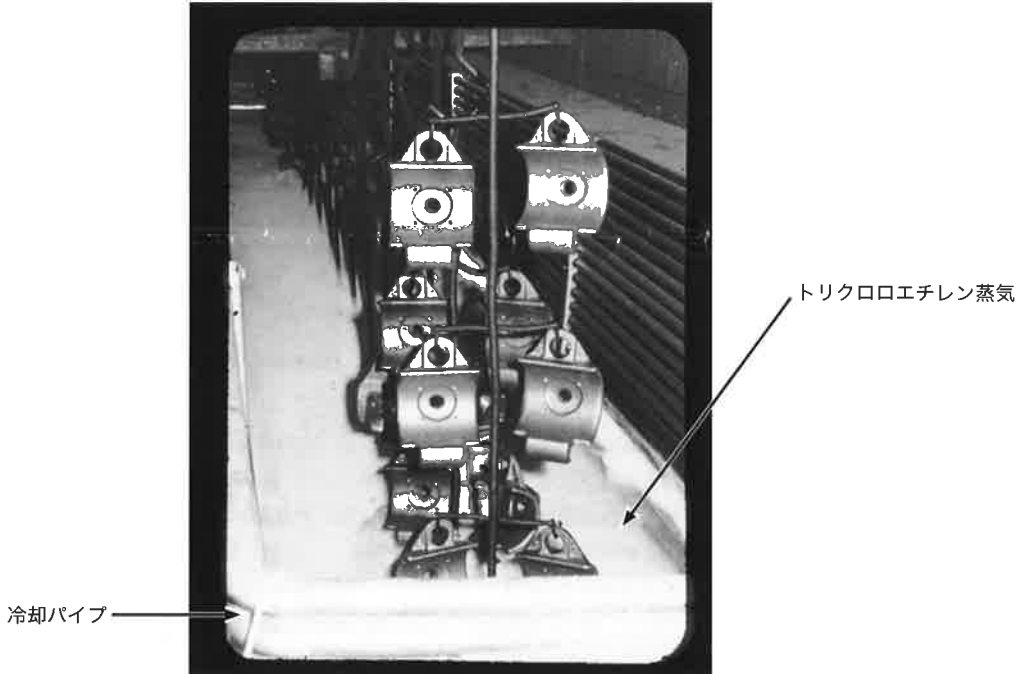


日本産業衛生学会東海地方会

# 地方会ニュース

発行所 地方会ニュース編集事務局  
 〒 470-1192  
 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1-98  
 藤田保健衛生大学医学部公衆衛生  
 電話 (0562) 93-2453  
 FAX (0562) 93-3079  
 発行責任者 井谷 徹

(題字 皿井 進筆)



トリクロロエチレン蒸気による塗装前の金属部品の洗浄 (1979年5月撮影)

## 生涯トリクロロエチレンの研究を

那須 民江 (名古屋大学大学院医学系研究科環境労働衛生学)



私が信州大学の助手として産業衛生学の研究を開始した当時は有害物質による中毒、即ち職業病が長野県内でも多発していました。研究を開始して2年目、内科医から鉛中毒が疑われる患者の血中鉛濃度の測定を依頼され、早速原子吸光法で測定したところ、70 $\mu$ g/100mlもありました。患者の話では、前任者も同様の症状で会社を辞めたということで、佐藤章夫先生(現山梨産業推進センター所長)と患者に面談し、鉛の環境測定と職場改善を申し出ました。翌日患者と母親が突然私たちの研究室を訪ねてき、母親が私たちの調査により会社と息子の中が拗れると一家が食べていかれないので調査をやめて欲しいことを訴えたので、私達はすんなりその要求を受け入れ、簡単な作業上の注意をして、この症例の対応を終わらせてしまいました。産業衛生学に浅学であった頃のほろ苦い経験です。

その後、有機溶剤中毒の症例が集まってきて、そのほとんどがトリクロロエチレンによるもので、多発神経炎や三叉神経炎等の中毒症例がみられました。信州の冬は寒く、室内換気が悪くなるため、春先に多く発生していることが特徴でした。昭和58年の春先、某病院の内科医から電話で、「ベンジンで多発神経炎が発症するか」との問い合わせがあり、患者の症状を尋ねたところ、職場から離れて

入院させても症状が進行するとのことでした。少し前にn-ヘキサンによる多発神経炎の症例に遭遇し、その患者の病状の進行と同じであることを思い出し、作業で使用していた「Aベンジン」を分析したところ、97% n-ヘキサンでした。早速患者全員の調査を行いました。肝心の工場の調査が出来ませんでした。患者が働いていた企業は孫受け企業で、私たちが調査を行いたいと願った時、当該作業場は既に改造され、別の事業が開始されていました。また、同じ頃、消化器内科医が「大腸腸管のう腫様気腫症」という珍しい病名とトリクロロエチレンとの関係の話を持ち込んできました。その因果関係を調査するために長野県下の工場を駆け巡り、時には約束を放棄され、調査できなかった事例もありましたが、トリクロロエチレンの使用の減少に伴いこの症例も報告されなくなり、因果関係の研究は中途半端で途絶えてしまいました。

平成14年名古屋大学へ異動となり、新天地にどのような産業衛生問題があるのかも解らず、心細い思いで研究を開始しましたが、ここでまたトリクロロエチレンによる職業病の研究に携わることになったことは運命でしょうか。有機溶剤中毒予防のために長野県内を東奔西走していた時代を思い出しつつ、中国で多発しているこの職業病の予防対策に向けて研究を続けています。

# 平成18年度 日本産業衛生学会東海地方会学会



牧野 茂徳 (岐大・医・看護)

平成18年度地方会学会は97人が出席し、懇親会には50人が参加しました。学会員の皆様の参加数は例年並でした。予想どおりではありませんでしたが、非会員の皆様の参加が少なかったようです。懇親会の出席人数は事前申込みより大幅に多い皆様からの参加をいただきました。柳戸キャンパスではじめて開催されたこの学会に参加された皆様に感謝いたします。今回の学会を開催するにあたり幸いであったことは、会場として使用した医学部大会議室、小会議室、医学部記念会館、生協医学部食堂はすべて建設間もない新しい建物であったことであります。特に、医学部記念会館、生協医学部食堂は平成18年4月から使用している建物であります。建物の完成前に準備をすることは若干の苦労もありました。たとえば、建物の内部構造がよくわからない。使用申し込み方法が決まっていないう等あります。プログラムについては、午前中は一般演題の発表が行われました。一般演題の発表が少ないと言われていましたが、そのために特に、一般演題の発表が増えるような働きかけはしませんでした。フタを開けてみましましたところ、13題の申込みがありました。もう1～2題の発表が望まれました。午後の特別講演では高木啓之先生(岐阜県東濃保健所)に「地域保健と職域保健の連携」と題してお話いただきました。今後、地域保健と職域保健の関係者が、健康診断、保健指導、健康相談、健康づくり運動等でこれまでのお互いのノウハウを生かした連携が必須であると述べられました。昨年は日本産業衛生学会東海地方会が創立されて70年の節目の年でした。記念行事として記念講演、写真展、懇親会が企画されました。今から20年前、東海地方会創立50周年記念の時も岐阜大学医学部で東海地方会学会が開催されました。その時、事務局を担当しました。宮田教授が学会長をつとめる予定でした。20年の歳月を感じます。

最後に、多くの人たちのご協力により無事学会を開催することができました。この場をお借りして感謝を申し上げます。

## プログラム

日 時：平成18年11月11日(土)  
 会 場：岐阜大学医学部本館大会議室、医学部記念会館ほか  
 〒501-1194 岐阜市柳戸1-1

10:00～12:00 一般演題 (13題)

13:05～14:05

特別講演 「地域保健と職域保健の連携」

講 師：高木 啓之(岐阜県東濃保健所健康増進課 課長)

座 長：牧野 茂徳(岐阜大学医学部看護学科 教授)

14:10～16:40

日本産業衛生学会東海地方会創立70周年記念行事

祝 辞 日本産業衛生学会 理事長 清水英佑

記念講演

1. 「東海地方会の歴史と果たしてきた役割」

講 師：竹内 康浩(地方会名誉会長)



日本産業衛生学会 理事長 清水英佑 先生



高木啓之 先生

2. 「東海地方会の将来展望」  
講 師：井谷 徹(地方会長)
3. 「地方会産業医部会の将来展望」  
講 師：岩田 全充(産業医部会長)
4. 「地方会産業看護部会の将来展望」  
講 師：和田 晴美(産業看護部会長)
5. 「地方会産業衛生技術部会の将来展望」  
講 師：那須 民江(産業衛生技術部会長)
6. 「地方会産業歯科部会の将来展望」  
講 師：金山 敏治(産業歯科部会長)

写真展：小会議室にて同時に開催

17:00～ 懇親会(生協医学部食堂)



◀岐阜大学医学部本館  
医学部記念会館

一般演題発表▶



◀日本産業衛生学会  
東海地方会  
創立70周年記念行事  
写真展

懇親会▶



◀会場風景



会場風景▶

## 日本産業衛生学会東海地方会創立70周年記念事業

井谷 徹 (日本産業衛生学会東海地方会長)

東海地方会創立70周年を迎え、70年に及ぶ地方会活動の歴史を振り返るとともに、新たな飛躍のための第一歩を踏み出す機会とすることを目的として、H18年度地方会学会の折りに記念事業を実施しました。記念事業には、清水英祐日本産業衛生学会理事長にもご出席頂き、竹内康浩地方会名誉会長、地方会長および地方会の各部長から、地方会の歴史を振り返るとともに、今後の活動の方向性について講演して頂きました。講演後の討議も含め、地方会のさらなる発展のために有意義な内容であったと考えております。また、地方会活動の歴史を顧みることを目的に写真展も同時に開催されましたが、先人の業績を再認識し、今後の活動の一助とするという意味で大いに意義深かったと評価しております。

### 記念講演を聴いて

巽 あさみ (浜松医大・医・看護)



東海地方会創立70周年記念行事、記念講演において座長をさせていただいた。

東海地方は愛知県、静岡県、岐阜県、三重県という我が国でも最も工業生産量の多い工業地帯を有していることから実践的な産業衛生学研究が推進されてきたことはよく知られている。今回1993年から2002年の長きに亘って地方会長を務められた名古屋大学名誉教授の竹内康浩先生から「東海地方会の歴史と果たしてきた役割」についてご講演をいただいた。

まず、東海地方の産業衛生が活発になった理由について、この地域が重要な産業拠点として工業や農業等立地条件に恵まれていたこ

と、歴史的に国際的激動の時代においての富国強兵（産業発展、健康増進）政策の影響、指導者に恵まれ後継者の人材育成に成功したこと、産業界の積極的活動、大学の産業衛生への積極的な取り組みの寄与などがあったことを知ることが出来た。中でも名大医学部出身の後藤新平先生が、日本の労働衛生政策を指揮されたことや、語録の「金を残すを下、仕事を残すを中、人を残すを上」は後継者育成の重要性を示しており印象的であった。1936年に鯉沼荊吾先生を世話人として東海地方会が発足したことや大学での衛生・公衆衛生学講座で労働衛生研究が発展したこと、地方会の有機溶剤研究会、職場精神衛生研究会、振動研究会などの発足が全国の研究会や東海地方の大学の研究推進力になったことを知り、現在の研究会活動の重要性を認識し、今後のあり方を改めて考える機会になった。さらに、私個人としては、皿井進先生や加藤先生、森川先生、飯田先生方のご活動を拝聴し、旧「衛生管理業務女子研究会」において当時先生方からご指導いただいたことが、今の自分を産業看護学の道へ繋げていただいたことに感謝した次第である。

このように地方会の歴史と役割について、年次毎にスライド・写真を用いて竹内先生ご自身のインフォーマルな情報での人物像も加えていただきながらのご講演は、会場からも和気藹々とした反応がみられ、この地方会により深い誇りと愛着を持つことができたのではないだろうか。

その後、井谷徹東海地方会長からは地方会の現状と今後の課題を、岩田全充先生は産業医部会から、和田晴美先生は産業看護部会から、各お立場よりの将来展望について力強い方向性を示すご講演をいただいた。

最後に指定発言の中で小林章雄先生から、最近の東海地方会員による全国学会参加や発表等が他地方会と比較して以前より減少していることがデータの指摘され、先人たちが築いてこられた東海地方会をどう発展させていくのか考えさせられ、身が引きしまる思いであった。



上野美智子 (岐阜県立看大)



那須産業衛生技術部会長のご講演は、労働衛生の歴史上特に関わりの深い作業環境測定と生物学的モニタリングが1次予防に役立つことをEMBで示され、インダストリアルハイジニストの役割の重要性におおいに納得しました。21

世紀は、化学物質管理とMSDSの有効活用、新しいタイプの職業病発生の多いアジア諸国への産業衛生の援助、それに加え、アスベスト問題が何故このような事態にいたるまで放置されてしまったか、原因を分析して今後の活動に活かしていくことなどが将来展望であることを伺いました。

金山産業歯科部会長からは、職業病対策に加え、THPや8020運動をはじめ口腔保健の重要性についてご講演を伺いました。口腔は食事の他に発音、表情に大きく影響し、咀嚼は栄養摂取の他にも脳血流量に影響を及ぼし、噛むことによる歯・歯肉の健康保持、ちなみに現代人の咀嚼回数は平均12.3回に比較し、家康は48回だったそうです。過労状態では口腔粘膜が敏感に反応して口内炎、歯肉の腫れ、出血などの炎症症状の発生やストレスによる歯ぎしりもみられる。口腔保健による職場の健康づくり、生活習慣病予防や健康寿命の延長などの将来展望を確認しました。

諸先輩の努力の上に東海地方会の70周年があることを思い、新たに2つの部会を加え4部会協同による産業保健活動の歴史が継続していることを実感しました。

嬉しいことに、よい刺激を受けて学会加入を希望された看護職、大阪から参加された看護職もいたことをお伝えします。

## 新春随想

### 「猪突猛進」

内野明日香 (聖隷健診センター)



明けましておめでとうございます。浜松に来て早5年……遠州弁にもすっかり慣れました。人間ドック、一般健康診断、特殊健康診断等健診機関だけに毎日の業務に忙殺されていますが、そんな中でも囑託産業医活動は私にとって

最も充実した時間です。浜松の中小企業に入って一番驚いたことは、ブラジル天国ということ。浜松市は、南米出身者が多く居住する地域で、とりわけブラジル国籍の外国人登録者に関しては、市町村レベルでは全国一です。(平成18年6月末 浜松市の総人口818197人、外国人登録者数30977人中ブラジル国籍18457人) 中小企業の多くは労働力確保のために、かなりの数のブラジル人労働者を受け入れており、受け入れにあたって最も苦慮しているのは言語(ポルトガル語)の問題で、安全衛生教育の実施、母国語の作業マニュアルや安全表示の作成、通訳の配置など言葉の壁を解消しようと努力しています。健康管理上の課題としては、彼らの多くが外国人人材派遣業者を通じて請負や派遣の形態で雇用されているため、健康診断の実施確認が困難な状況にある点が挙げられます。そんな心配をよそに、ブラジル人はかなり楽天的。外国人のなかでも特にブラジル人は健康診断などの予防医学に対して馴染みがなく、自分から進んで健康診断や事後措置を受けたがらない傾向があるという報告もあり、健診機関としては頭の痛いところ。日本人労働者のメンタル不全が問題になっている昨今ですが、彼らの人生観は「生きていることは素晴らしい。衣食住足りて他に何望むの？」とのこと。ケセラセラどうにかなるさ……という印象を受けます。

話は変わりますが、私の囑託産業医活動のモットーは千円でおいしい料理をつくることです。1万円かけて最高食材を揃えればおいしくなるのは当たり前ですが、千円で4人分の美味しく体によい料理を作ることこそ囑託産業医の腕のみせどころだと思っております。3人目の出産を間近に控え、だんだんテンションもあがって参りました。猪突猛進で頑張る所存でございますので、今年もご指導のほど宜しくお願ひ申し上げます。

### 「産業看護職としてのこれからの自分」

中村 明美 (三菱重工岩塚)



皆さん、明けましておめでとうございます。新年を迎えるたびに時の早さを実感しています。早いもので看護師業務を経験後保健師の資格を取得し、産業看護職に就いて12年が経過しています。

産業構造の変化・高齢化の進展等、労働者を取り巻く環境が変化している近年、心もからだも健康で働けることが望まれています。そのために、健康管理に関して自分に与えられている業務をこなしながら、事業場内の産業保健スタッフの一員として、より専門的な知識・技能を有する保健師として成長していくことも大切と考えております。また、労働者だけではなく、その周りの作業体制、職場環境、有害業務、環境測定等にも視野を広げて総合的に見ていきたい!と思うようになりました。

日本の産業看護は、明治維新後の工場看護婦を始まりとし、戦後の産業発展期には、健康診断や結核対策、母子保健、伝染病予防に力を注がれました。その後、労働衛生として、労働者の健康の全場面へと介入され、産業看護職が確立されました。そして、第15回産業看護部会総会において、『産業看護とは、事業者が労働者と協力して、産業保健の目的を自主的に達成できるように、事業者、労働者の双方に対して、看護の理念に基づいて、組織的に行う、個人・集団・組織への健康支援活動である。』と、新しい定義も出されました。

一昨年、当事業場において事業の再構築がおこなわれました。私の業務も健康管理業務、診療業務、救急処置、職場巡視、安全衛生会議、メンタルヘルス対策、統計処理等と幅広く複雑化し、効率よくこなしていかなくてはいけない状況です。毎日多様な業務をしながらも学ぶことは沢山あります。また、安全衛生に関する資格の取得、研修会・学会の参加や他の産業看護職の方との交流する機会は、自分の知らない事や情報を得られるのでとても新鮮さを感じます。

今年も今まで以上に様々な方向から自己啓発、自己研鑽を心がけて、産業保健を学んでいきたいと思っています。ともに健康に働ける1年になりますよう、「ご安全に!そしてご健康に!」。

### 「負け組」に思う

黒川 淳一 (岐大・大学院医・スポーツ医科学)



2007年といえば北京オリンピックを控え、どの競技も出場選手選抜を巡って大変重要な時期となります。私達はTVなどの報道を通じて彼らのひたむきな努力を知り、それでも夢が叶わなかったときの無念さや、敗北の悔しさに思いを馳せては共感し涙することでしょう。観客の立場からすれば、この感動に触れたいがために競技を視戦し続けてきたと言っても過言ではないでしょうか。どんな競技も優勝者以外は、必ずどこかで敗北の辛酸を嘗めることになるのですが、それでも多くの者が切磋琢磨するのは、観客だけでなく選手自身にもそういった感動の希求があるのかもしれない。しかし選考に漏れた

「敗者」のその後については、あまり聞き及ぶ機会がありません。この感動を得るがために、いかに多くの「敗者」の涙を観客は必要として来たか？そして、時間の経過と共に、感動はいかに容易く観客から忘れ去られてきたことでしょうか。感動の「消費」は残酷でありながら、消費への欲求は高まるばかりです。

過熱する競争や消費といえどもスポーツに限りません。近年の経済活動は過熱の一途を辿っており、「勝ち組」と「負け組」を生み出す格差社会について、多くの文化人らが警鐘を鳴らす通りです。そして消費は、もはや一つの重要な価値となりました。

「勝ち組」にも言い分はあるのですが、本稿では「負け組」について考えてみたいと思います。そもそも何故、「負け組」に感情移入がなされ共感が得易いのでしょうか？背景の一つには、選手にせよ勤労者にせよ「ひたむきで勤勉、実直でつつましく、時に自罰的」でさえある「メランコリー」な生き様に多くの人々が価値観を見出してきたことが挙げられます。いずれどこかで負けると知りつつも過酷な練習に耐える姿勢はマゾヒスティックでもあるのですが、時としてこの力んだ感覚は「根性」があるとして賞賛されることさえあります。このような生き方に「消費」を謳歌する生き方は似つかわしくありません。しかし、競技や経済活動はいかに多く「消費」させるかという視点をはらんでいます。この相反する価値観が共存する歪みは、現代社会をより複雑にしているように思いません。

## 「人を育てるということ」

尾辻 典子 (本田技研鈴鹿)



現在、多くの企業ではグローバル展開と言って、全世界への進出がなされていますが、世界で人々と接していく中で大切なのは、その国の言葉がしゃべれる事よりも、自分の国の文化（つまり日本文化）にどれだけ精通しているかであるとのことです。日本にはたくさんの伝統工芸や芸術など世界に誇れるものがありますが、それについてどれだけの事を知っているかという点と恥かしいかぎりです。

多くの伝統工芸では継承者不足が問題になっています。我が勤務地の鈴鹿では「伊勢型紙」が有名ですが、最近、そこで若い方達が技術の習得に励んでいるのをテレビで見て、日本の文化を伝承しようとしている人がいる事に感動を覚えました。

それと同様に多くの製造現場では、不況をはじめとしていろいろな要因がからみ採用が控えられていたこと、団魂の世代の定年がはじまりつつあることから、最近技術者不足や技術の伝承がうまくいっていないことが問題となっているようです。技術を伝承していくにはある程度の年月が必要であり、そのためには人材育成を考慮した上で先を見越した雇用が必要となります。経営の面からの視点もふまえずかしい判断となることも多いと思われ、つくづく人の問題はメンタルの面からも重要であると同時に大変であると感じています。

また次に自分自身に目を向けてみると、果たして子どもに対してどういう事を伝えていけばいいのか、日々の生活の中で目先の事だけにとらわれているようにも思われ、子どもとともに今後も成長していくつもりで、時には振り返り反省しながら活かしていけるように思っています。

## 特別寄稿

### 「生活習慣病と保健指導への雑感」

小西美智子 (日赤豊田看大)



我が国の成人期以降の主な死因は生活習慣病であることは保健医療福祉専門職だけでなく、多くの人々が理解している。この生活習慣病の発症予防、悪化防止、病状の改善には、健康に良い生活習慣を実行するのが重要であること

は、多くの疫学調査によって証明されている。食事、運動、休養、喫煙、飲酒等に関わる良い生活習慣を保持することは健康日本21の目標であり、国の政策として健康増進法による法的な基盤整備も行われ、実行しやすい環境が支援されている。生活習慣病は今まで長い年月繰り返してきた生活上の種々の習慣が疾病の発症要因であることから、人々がその生活習慣を変えること、つまり刺激を受けて行動を変える、行動変容へと導くために、専門職は昭和53年の第1次国民健康づくり以降、保健指導を行なっているが、当事者が実行すること、継続することは簡単ではない。

保助看法によって保健指導に従事する者と定義されている保健師は、産業看護領域や保健所・保健センターで保健指導を行っているが、対象者が行動変容ができない、生活習慣病の予備群が増加する、予備群が疾病群に変わっていく、症状が重複しメタボリックシンドロームとなり、死の4重奏へと進行して行く状態に直面することが多い。

保健指導を行なう場合、まず保健指導内容が対象者のニーズと一致していることが必要である。対象者のニーズは問診だけでは把握が困難であるし、対象者自身も把握できていない場合もある。そこで協力の得られた生活習慣病予備群あるいは生活習慣病を持っている成人に依頼して、生活習慣改善のために保健師が行なった保健指導後に、その保健指導をどう受け止めたのか一受け止めることが困難であった事項一、どう実行したのか一実施することが困難であった事項一、実行できたことは何か一実行するについて良かったことは何か一、さらに保健指導について望むことは何か等を、面接で質問し、さらに3ヶ月後位を目処に生活習慣について追跡調査を行ない保健指導方法について検討した。分析の過程において社会心理学者のBanduraが提唱した自己効力 (self efficacy) を持てるように指導・支援することが重要であると考えた。つまりある行動ができるという自己確信、可能性、自信、意欲をもてるようになり、目標に向かって積極的に取り組み、困難に立ち向かい、対処できる態度・行動を育成することである。自分に自己効力があると実感する自己効力感 (Perceived self efficacy) は制御体験、代理的体験、言語的社会的説得、生理的・感情的状態を情報源として影響を受けるので、保健指導においてはこの4つの情報源を個別性を重んじて、各自の中に適切に取り込めるように、継続的に支援することも必要である。また理論横断モデルを提唱したProchaska等が述べているように、行動変容は5段階 (熟考前、熟考、計画または準備、実行、維持) で進むことから、対象者の行動変容への時期を把握した支援も求められていると思う。

## 学会・研究会

## 第68回 職場ストレス研究会

堀 礼子 (愛知医大・医・衛生)

第68回職場ストレス研究会は、平成18年9月6日明倫ホールで開催されました。今回は、愛知医科大学総合診療科(兼)精神神経科助手の山口力先生による、「職場における不適応症状へのアプローチ：慢性疼痛、IBSを中心に」というタイトルの講演でした。

「痛み」は、多くの疾患に伴われる症状であり、痛みを訴えるケースは非常に多いですが、器質的疾患による症状でない場合もあり、また訴えられる痛みを理解し共感することは非常に困難で、当惑することも多々あると思います。職場でも痛みを抱えながら働いている人々と接することが少なくないのではないのでしょうか。このような困った症状がどのような疾患・病態によるものなのか、疼痛のアセスメントの仕方をお示しいただき、慢性疼痛を持ったケースについてご紹介していただきました。また、先生のご専門である消化器領域からは、過敏性腸症候群(IBS)について、心身医学のトピックスである「脳-腸相関」や、愛知医科大学における絶食療法、見逃しがちなIBSのcomorbidity(併存疾患)、IBS・慢性疼痛に伴う抑うつとその治療等を非常にわかりやすくお話していただきました。

疼痛・IBS・うつに対する心身医学的アプローチをお示しいただいたのですが、このdeepなご講演を聴かせていただいて、山口先生が心療内科の臨床の場で、患者さんにどのように接しておられるかも、体験できたように思います。

## 第18回産業神経・行動学研究会

古橋 功一 (名大院・医・環境労働衛生学)

本研究会(世話人・市原学名古屋大助教授)は、2006年11月18日(土)に名古屋大学医学部・鶴友会館において、北海道から九州に至る40名の参加者を得て開催されました。産業神経・行動学研究会代表世話人・横山和仁三重大学教授による開会の挨拶に続いて、午前中は6つの一般演題(「スチレン曝露における神経毒性と代謝酵素の遺伝子多型との関連」「中国鉱山労働者における水銀蒸気の神経運動機能に及ぼす影響」「睡眠潜時と瞳孔径指標で測定される日中の眠気」「産業現場におけるストレスのセルフケア」「Reversibility of the adverse effects of 1-bromopropane exposure in rats」「1-ブロモプロパン胎児期曝露と幼若期海馬興奮性」)の発表がありました。

午後からは、特別講演「両性がともに働きやすい職場を作るために-ジェンダー・ストレス/妊娠期のストレス/キャリア・ストレスの視点から-」が開催されました。後藤節子氏(名古屋大学・医学部保健学科)より、「ジェンダーストレスと産婦人科疾患」として、名古屋大学の文理合同研究グループの成果の一部として、妊娠期から産褥期にかけての健康問題について、つわりや妊娠後期の心身疲労状態、マタニティブルーや産後うつ病などの実態が報告されました。中村彰治氏(山口大院・医・高次神経科学)より、「妊娠期のストレスが母子に与える影響」として、妊娠ラットに様々なストレスを負荷することにより、仔の脳の発達や、生後の行動、ストレス反応性に変化が生じることが示されました。金井篤子氏(名古屋大院・教育発達科学研究科)より、「キャリア・ストレスとワーク・ライフ・バランス」として、ワークライフバランスの現状や、ワークホリック尺度の特徴、ワークファミリーコンフリクトの分析

が報告されました。

その後、話題提供として、村田勝敏氏(秋田大・医・環境保健学)より、「メチル水銀の神経生理学的根拠」として、出生時から小児集団を追跡調査する研究のなかで、種々の神経生理学的検査の応用されてきたことを踏まえて、その有用性を示されました。小野雄一郎氏(藤田保衛大・医・公衆衛生学)より、「作業関連筋骨格系障害に関する研究的アプローチ」として、これまでの非特異的・特異的障害の診断に関する到達を踏まえて、さらなる病態研究の必要性和動物モデルを使用した展望について語られました。

研究会の終了後、交流会で和やかに情報交換・懇親が行われました。

## 第2回 東海産業医部会懇話会

川島 陽子 (新日鐵名古屋)

紅葉も美しい11月25日土曜日の午後、第2回東海産業医部会懇話会が愛知健康増進財団会議室にて開催されました。第1回に引き続き、約30人の方が集い、産業医部会会長 岩田全充先生の司会による和やかな雰囲気の中、ざっくばらんな意見交換の場となりました。

まず、最初のテーマである「わが社の産業保健活動の現状と課題」について、数箇所からご発表があり、分散事業所における適切かつ公正な産業保健サービスの確立、グローバル化が進む製造業における健康管理体制の構築、組織改正による新たな安全衛生体制確立のための模索など、さまざまな現場の活動状況が紹介されました。また、こうした活動を支える人材の育成や確保、産業医という専門性と責任・自覚のあり方などの課題も示されました。最後に、次回テーマである「産業医のあり方」を考える上での参考資料として、産業医活動推進委員会による「産業医の職務一覧表」が、紹介されました。

昨今では、多様化する各企業・組織の特性やニーズ、各種法改正や指針、さらに日進月歩の医学研究により、産業医の役割も日々刻々と変化しているように見えます。これらの変化に適切に対応してゆくためにも、あらためて「産業医の職務」とは何か、「産業医のあり方」とは、という根源的・普遍的な部分を明らかにし、さまざまな判断基準の根元が揺らぐことの無いようにしてゆく必要があると感じた午後のひとときでした。

本音で話し合うことで、日々の活動の糧となる貴重な気づきを得ることができる産業医部会懇話会。開催にご尽力された岩田先生、そして副部会長の村崎元五先生に心より御礼申し上げます。

## 第1回 産業歯科部会研修会

原 康二 (三河歯科衛生専門学校)

第1回研修会を11月19日に朝日大学名古屋サテライトで開催しました。前半は「産業歯科保健と労働安全衛生マネジメントシステム」金山敏治先生、「産業歯科疾患とリスクアセスメント」瀧昌弘先生の講演を行い、後半は規定の確認や役員の選出、今後の活動について協議しました。歯科部会の設立は東海地方会が全国に先駆けたもので、これまで産業歯科保健に係わってきた先人の努力と多くの方々のご理解に支えられた結果と思います。当日は17名の参加とさきやかなスタートでした。職場でのストレスが口腔の症状として現れる可能性があるなど意見が出されました。これから基礎的な事柄を整理し、他職種の会員と連携して活動を広げていきます。

会員の表彰

緑十字賞

新谷 良英 ((医)宏潤会 大同病院 環境測定センター)

これからの諸行事予定

- ①2006年度 第2回 労働衛生国際協力研究会
  - 日時: 2007年1月13日(土) 13:30~17:00
  - 会場: 名古屋市立大学医学部研究棟11階 講義室B
  - テーマ: 「外国からの移住・出稼ぎ労働者の労働と健康」
  - 1. 日本・韓国・マレーシア・フィリピンで起きていること 久永 直見 (愛知教育大)
  - 2. 東海地区における移住労働者の健康と安全の課題 杉浦 裕 (名古屋労災職業病研究会)
  - 3. 外国人労働者の健康管理に係る諸問題 (仮) 丹羽さゆり
  - 4. 総合討議

- ②第69回 職場ストレス研究会
  - 1. 日時: 平成19年2月7日(水) 14:00~16:00
  - 2. テーマ: 「職場のメンタルヘルス対策における産業看護職の役割」
  - 3. 講師: 河野啓子 (四日市看護医療大学 設立準備室 顧問)
  - 4. 資料代: 500円
  - 5. 場所: 明倫ホール (中区新栄2-4-3 明倫ビル 6F)
  - 6. 事務局: 愛知医科大学医学部衛生学教室
    - TEL: 0561-62-3311 (内線2371・2312)
    - FAX: 0561-63-8552
    - E-mail: syokuba@aichi-med-u.ac.jp

- ③第21回 産業医・産業看護職・衛生管理者担当者のための研修会
  - 1. 2007年2月9日(金) 10:00~16:45
  - 2. 会場: 産業技術記念館 大ホール
    - 〒451-0051 名古屋市西区則武新町4-1-35
    - TEL: 052-551-6111
  - 3. 会費: 会員: 7,000円 非会員: 8,000円 (昼食・資料代を含む)
  - 4. 定員: 300名 (定員になり次第、締め切らせて頂きます)
  - 5. 事務局: 日本産業衛生学会東海地方会事務局


〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町川澄1  
 名古屋市立大学大学院医学研究科労働・生活・環境保健学分野内  
 TEL: 052-853-8171 FAX: 052-859-1228  
 E-mail: tosh-net@med.nagoya-cu.ac.jp

- 6. プログラム
  - 10:00~10:15 開会の挨拶・オリエンテーション
    - 日本産業衛生学会東海地方会会長 井谷 徹
    - 日本産業衛生学会東海地方会事業部長 寺澤哲郎
  - 10:15~11:30 講演「産業の場におけるメタボリックシンドローム対策」
    - 東京通信病院 内科部長 宮崎 滋
    - 座長 トヨタ自動車 安全健康推進部長 岩田全充
  - 11:30~12:45 講演「心の病からの職場復帰をめぐって」
    - 京都文教大学人間学部臨床心理学科教授・
    - 神田東クリニック 院長 鳥 悟
    - 座長 JTEKT安全衛生環境室 杉本日出子
  - 12:45~13:45 休憩(昼食)
    - 午後の部 —
  - 13:45~15:00 講演「働く女性の健康管理に対する産業保健スタッフの役割」
    - 中央青山監査法人健康サポートセンター 初見智恵
    - 座長 名古屋郵政健康管理センター 村崎元五
  - 15:00~15:20 休憩(コーヒーブレイク)
  - 15:20~16:35 講演「職場環境とシックハウス症候群」
    - 名古屋大学大学院医学研究科 上島通浩
    - 座長 名古屋市衛生研究所 疫学情報部 土屋博信
  - 16:35~16:45 閉会の挨拶

- ④第20回振動障害研究会
  - 日時: 平成19年2月24日(土) 午後1時~4時
  - 場所: 名古屋大学医学部・基礎医学研究棟別館 3階大学院修士講義室
  - 演題:
    - 1. 手持動力工具振動値のラベリング方法について
      - 前田 節雄 (独立行政法人 労働安全衛生総合研究所)
    - 2. 機械・工具安全に対する最近のISO、欧米の動向
      - 畠山 常人 ((株)マキタ)
    - 3. ISO 10819による防振手袋の評価について
      - 柴田 延幸 (独立行政法人 労働安全衛生総合研究所)
    - 4. 林業労働者の冬期の自覚症状
      - 井奈波 良一 (岐阜大学医学部)
  - 事務局: 名古屋大学医学部保健学科・榎原久幸
    - 〒461-8673 名古屋市東区大幸南1-1-20
    - [電話/Fax (052) 719-1923]
    - Mail: sbara@met.nagoya-u.ac.jp

<p>財団法人 <b>愛知健康増進財団</b></p> <p>会長 川口 文夫</p> <p>〒462-0844 名古屋市北区清水一丁目18番4号 TEL(052)951-3331</p>
<p>株式会社 <b>あまの創健</b></p> <p>代表取締役社長 中山 勝平</p> <p>〒461-0001 名古屋市東区泉2丁目20-20 TEL(052)931-0101 FAX(052)932-1745</p>
<p>医療法人 <b>光生会病院</b></p> <p>健診センター・PETセンター</p> <p>〒440-0045 豊橋市吾妻町137番地 TEL (0532) 61-3166 FAX (0532) 63-5407</p>
<p>(社福) <b>聖隷福祉事業団</b></p> <p>聖隷健康診断センター</p> <p>所長 武藤 繁貴</p> <p>〒430-0906 浜松市住吉2丁目35-8 TEL(053)473-5501</p>

謹賀新年



<p>医療法人 <b>愛知集団検診協会</b></p> <p><b>愛知健診所</b></p> <p>〒496-0048 津島市藤里町2-3-1 TEL (0567) 26-7328番 FAX (0567) 26-7994番</p>
<p>財団法人 <b>岐阜県産業保健センター</b></p> <p>理事長 籠橋 久衛</p> <p>診療所長 加藤 保夫</p> <p>〒507-0801 多治見市東町1丁目9番地の3 TEL(0572)22-0115</p>
<p>医療法人 <b>社団卓和会</b></p> <p><b>しらゆりクリニック健診センター</b></p> <p>理事長 由利 卓也</p> <p>〒442-0013 豊川市大堀町77番地 TEL0533-86-1515</p>
<p>(社福) <b>聖隷福祉事業団</b></p> <p>聖隷予防検診センター</p> <p>所長 浅井 八多美</p> <p>〒433-8558 浜松市三方原町3453-1 TEL(053)439-1111</p>

⑤第18回 日中韓産業保健学術集談会  
 日 時：2007年5月20(日)～22日(火)  
 会 場：名古屋国際会議場  
 学会長：井谷 徹

⑥第14回 日本産業精神保健学会  
 日 時：2007年6月29日(金)～30日(土)  
 会 場：名古屋国際会議場1号館 名古屋市熱田区熱田西町1番1号  
 大会長：愛知医科大学医学部教授 小林章雄  
 大会事務局：愛知医科大学医学部衛生学講座

**地方会理事会**

2006年度 第2回理事会  
 日 時：2006年8月19日(土) 10:00～  
 場 所：名古屋市立大学医学部研究棟11階特別会議室

**【議 題】**

A. 前回理事会議事録の確認

B. 報告事項

- 1) 2本部報告事項 2) 地方会事務局報告事項 3) 平成18年度総会並びに研修会開催報告 4) 平成18年度地方会学会準備状況 5) 地方会部会報告 6) 地方会ニュース編集状況 7) 役員選挙について 8) 関連学会・研究会開催報告 9) 今後の関連学会・研究会等 10) その他

C. 協議事項

- 1) 地方会70周年記念行事について 2) 専門性を持った産業医育成の在り方 3) 平成19年度地方会総会並びに研修会 4) 平成19年度地方会学会 5) 新研究会の設立要望について 6) その他

2006年度 第3回理事会  
 日 時：2006年11月25日(土) 10:00～  
 場 所：名古屋市立大学医学部研究棟11階特別会議室

**【議 題】**

A. 前回理事会議事録の確認

B. 報告事項

- 1) 本部報告事項 2) 地方会事務局報告事項 3) 平成18年度地方会学会開催報告 4) 地方会70周年記念行事報告 5) 平成19年度総会並びに研修会準備状況 6) 平成19年度地方会学会準備状況 7) 第21回産業医・産業看護職・衛生管理者のための研修会の準備状況 8) 地方会部会報告 9) 地方会ニュース編集状況 10) 役員選挙について 11) 関連学会・研究会開催報告 12) 今後の関連学会・研究会等 13) その他

C. 協議事項

- 14) 地方会70周年記念行事 資料の取扱いについて 15) その他

**会 員 の 異 動**

(2006.8.1～2006.11.30)

- 【新入会】** 愛知①中川真実 (NTT西日本東海健康管理センター) ②本田恭子 (愛知県農協健康保険組合) ③藤崎恵美子 (中部大学) ④上田ゆみ子 (中部大学) ⑤小澤 晃 (小澤歯科医院) ⑥松山須賀子 (公衆保健協会) 静岡①中江章子 (静岡大学) ②渡辺百合子 (ヤマハ健康管理センター) 三重①山岡久泰 (近畿日本鉄道名古屋健康管理センター)
- 【転入】** 静岡①宮元 愛 (九州から)
- 【転出】** ①七崎之利 (静岡徳洲会病院) (九州へ) ②新見亮輔 (浜松医大) (九州へ) ③日野亮介 (スズキ湖西工場) (九州へ)
- 【退会】** 愛知①酒井信子 (ブリジストン関工場) ②田川ゆかり (JR東海総合病院健康管理部) ③伊藤 圓 (豊田地域医療センター) ④池田 誠 (池田病院) ⑤山村津子 (旭化成富士社健康管理センター) ⑥堀井直子 (中部大学)

訂 正：第67及び68号にて、退会者の中に名前が提示されました、三重 宮村えりか様 (本田技研) は、退会されていませんでした。当方の手違いでご迷惑をおかけしましたこと、心よりお詫び申し上げます。

**編 集 後 記**

2007年あけましておめでとうございます。2006年にはサッカーの中田やプロ野球の新庄が引退し、首相は小泉氏から安部氏に、松坂大輔はレッドソックスに、冥王星は資格を剥奪されるなど、多くの変化がありました。また、いじめ、家庭内殺人、Working Poor、竜巻・豪雪・地球温暖化、北朝鮮の核実験 etc、オリンピック金の荒川静香をつい忘れてしまうほど多彩なNEWSが思い起こされます。反面、氾濫する情報を密度濃くスピーディに配信する報道のおかげか「光陰矢の如し」、ひどく慌しく一年が過ぎ、まったりできない余裕のない現代に切なさを感じる今日この頃。そこで、時間を大切に使うための今年の目標「石に枕し流れに漱ぐ」、皆さまはいかがですか？ (渡邊美寿津)

次 回 発 行 平成19年5月1日  
 編 集 責 任 者 谷 脇 弘 茂 (藤田保健大)

**編 集 委 員 (五十音順)**


- 石川浩二 (三菱重工) 市原 学 (名大)
- 加藤保夫 (岐阜県産業保健センター) 後藤義明 (富士電機)
- 高崎正子 (東芝四日市) 城 憲秀 (中部大)
- 武山英鷹 (東海学園大) 武藤繁貴 (聖隷健診センター)
- 渡邊美寿津 (愛知医大)

財団法人芙蓉協会 聖隷沼津第一クリニック  
**聖隷沼津健康診断センター**  
 所長 伊藤 孝  
 〒410-8580 沼津市本字下丁田895-1  
 TEL (055) 962-9882 FAX (055) 952-1019


---

医療法人 九愛会  
**中京サテライトクリニック**  
 理事長 宮 嶋 忍  
 〒470-1101 愛知県豊明市杏掛町石畑180番地の1  
 TEL (0562) 93-8225 FAX (0562) 93-0938

---

 医療法人 名翔会  
**名古屋セントラルクリニック**  
 〒457-0071 名古屋市南区千電通7-16-1  
 TEL (052) 821-0090 FAX (052) 824-0655

---

 社団法人  
**半田市医師会健康管理センター**  
 所長 春 田 和 廣  
 〒475-8511 半田市神田町1-1 TEL (0569) 27-7881

謹 賀 新 年  
平 成 十 九 年 元 旦

社団法人 **瀬戸健康管理センター**  
 理事長 神 戸 芳 樹  
 診療所長 坪 井 靖 治  
 〒489-0809 瀬戸市共栄通1丁目48番地  
 TEL (0561) 82-6194 FAX (0561) 85-2466

---

(医) 豊昌会  
**豊田健康管理クリニック**  
 〒473-0907 豊田市竜神町新生151番地2  
 TEL (0565) 27-5550 FAX (0565) 27-5036

---

 医療法人 大医会  
**日進おりど病院**  
 予防医学推進・研究センター  
 〒470-0115 日進市折戸町西田面110番地  
 TEL 0561 (73) 7771 FAX 0561 (73) 6140

---

